

川で生まれて 川で育って 川で生きる ～水守のいる町 川尻(緑川水系加勢川)～

熊本県 熊本市
加勢川開発研究会

3 活動の成果や波及効果等

「緑川の日」の流域内一斉清掃活動をはじめ、伝統漁法「肥後細川流投網」を受け継ぐ人々の関わりによる、文化としての舟運の伝承（世代をつなぐ）、川尻地区で永きにわたり受け継がれてきた「川に還る」精霊流し（伝統文化）の継承を支える活動、新たな脅威となっている特定外来種の駆除などに取組んでいます。

長年の活動継続により市民へ浸透が拡大し、川を大事にし、きれいな水をよみがえらせた熱い思いをもった若者達が増えています。育った次世代により、流域全体を視野に入れた新たな河川協力団体も発足されています。

様々なイベントを行う中で子どもと大人（お年寄り）との縦の絆・子どもたち同士の横の絆が深くなり、地域の交流も図られるなど、取組は良好な河川環境の維持や地域の連携強化に寄与しています。



伝統漁法の保存・伝承



緑川の日 流域内一斉清掃

所在地

熊本市南区

活動主体及び連絡先

加勢川開発研究会 (096-357-5568)

対象となる社会資本

加勢川、緑川、中無田閘門
※管理者：九州地方整備局 熊本河川国道事務所



1 社会資本の概要

熊本市を流れる緑川水系加勢川（延長約 20km）の源流は、湧き水が豊富な江津湖です。

加勢川下流に堰が造られ、天草から来る木炭や薪などを乗せた船が加勢川をのぼれなくなったことから、緑川から船の往来を可能にするため建造された

のが「中無田閘門」です。現在も現役で活躍している閘門であり、木製の閘門は日本全国でも珍しいものです。

地元では「ミニパナマ運河」と呼ばれ親しまれています。



中無田閘門 遠景



中無田閘門

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

地域にある自然は川であり、水は米作りにも使われています。川で遊ぶためにも美しい水環境が必要です。少し前の時代には川から人が離れてしまいましたが、きれいな川の保全には人と自然との関係維持が大切だと考えています。人と自然との関わり再生も視野に、子どもたちからお年寄りまで、幅広く参加できる事業・イベントを計画し、川漁の面白さや川の大切さ・水の大切さ、怖さを教え、川

に親しむこと、「お年寄りに生きがい、青年にやりがい、子どもたちには思い出づくり」をモットーに活動しています。

河川施設等の役割や仕組みに詳しい「水守（閘門操作人）」の「語り」や、閘門周辺をフィールドとした環境学習を通じ「自慢できるふるさとの川づくり」を実践しています。



緑川の日 環境学習ブース



小学校の環境学習



中無田閘門プレイパーク開放

喜びの声



受賞者

加勢川開発研究会
会長 井村 紘

コメント

高度経済成長期、生活が豊かになる一方で川は汚れ、人は川から離れました。
～川と人とのつながりを取り戻したい～
活動を始め早 30 有余年になります。
様々な活動で沢山の人が川に関わっています。
若者も育ち次世代として引き継いでくれています。
今回の表彰も励みに更なる発展、向上を目指します。
表彰ありがとうございました。

活動の内容

- ・小中学校の環境学習
- ・伝統漁法「合せ打ち」の継承保存
- ・外来水草の除去
- ・川尻「精霊流し」支援 他

活動の経緯

平成元年 会の設立
// 合せ打ち保存会を発足
平成 10 年 小中学校環境学習開始
平成 26 年 国交省の協力団体となり、
外来水草除去を開始。
以後、活動を継続、現在に至る。